

自家用車利用許可への決断

長崎大学教育学部附属幼稚園
園長 室野 亜津子

これまで、本園は登降園について「徒歩または公共交通機関の利用」を条件としてきました。しかし、このたび「自家用車利用許可」に踏み切ることにしました。

そこで、ここに至るまでの本園の考えと、今後について記します。少し長いですが、しっかり理解していただきたいと思って書きます。

徒歩または公共交通機関にこだわった理由

①親子の触れ合い

親子で手をつないで幼稚園まで来るよさは、温かな手のぬくもり、鳥や花や虫など親子で同じものを見て「きれいね」「かわいいね」と発見を楽しむこと、雨や風など辛いことも親子で一緒に体験すること、このような共有が、その後大切な思い出となります。手をつないで歩けるのはほんの一時期だけ。今の時期を大切にしてほしいと思います。

②公共交通機関に慣れる

附属小学校に入学すると、子どもたちは一人で電車やバスに乗って通学します。自信をもって、かつ安全に通学するためには、幼稚園のうちに慣れておく必要があります。車内では騒がない、バス停等では並んで行儀よく待つなどのマナーもしっかり身に付けておかなければなりません。

しかし…

ちょっと角度を変えて考えてみました。

○バスに乗る人は、自宅からバス停まで、バス停から幼稚園まで手をつないで歩きます。自家用車で来ても、駐車場から幼稚園まで手をつないで歩きます。

○もともと公共交通機関を利用しない徒歩通園の親子もいます。

自家用車を利用できると…

○働いていらっしゃる方も出勤前に送ることができる

○特に小さい弟妹がいる御家庭は送迎がしやすくなる

○登園から降園までの時間に余裕をもって家に帰ることができるなど、メリットがあります。

そこで…

これまで大切にしてきたことは忘れずに、自家用車利用許可の決断をしました。

ただし…

気を付けたいことがあります。

○車の中でDVDを見せっぱなし、これではこの時期に大切にすべき「親子の触れ合い」はできません。車の中で親子で話をしたり、一緒に歌を歌ったり、周りの景色を見たりして、楽しんでください。

○小学校に上がる前に、一人で通学できる自信をつけさせましょう。特に年長になったら、少し遠くても歩く、バスや電車の乗り方やマナーを覚える期間が必要です。

○寄り道はしない。車だつとい、買い物も済ませてから帰ろうと考えてしまうかもしれませんが、それが子どもによくない影響を与えます。幼稚園のときに寄り道をする経験は、子どもにとって素直に「寄り道していいんだ」という記憶になります。小学校、中学校と進学したときに、その記憶は寄り道へのハードルを低くします。そして、犯罪に巻き込まれてから後悔しても遅いのです。幼稚園や学校からはまっすぐ帰るものという記憶を今のうちに染み込ませましょう。

この決断をするにあたっては、長崎大学教育学部の学部長、副学部長、後援会の会長、副会長、育友会の会長、副会長と直接会って相談しました。皆さん、本園の意図を分かってくさいました。

また、許可に踏み切ることができたのは、コロナ対策で一時的に自家用車利用許可を実施してみて、近隣からの苦情が1件もなかったからです。

本園に通う保護者が皆、良識ある方々ばかりで、マナーのよさを実証してくさいました。

これらのことを、これから附属幼稚園に入園して来られる方々にも引き継いでいかねばなりません。

くれぐれも交通事故には十分注意し、徒歩、自家用車、公共交通機関を適切に選択して通園してください。

伴って変わること

○来年度の園児募集要項から、「自家用車での通園はできません。」の文を削除しました。それに伴い、募集区域に新たに戸町・小ヶ倉・南長崎の小学校区を加えました。

○今後は自家用車許可申請は必要ありません。

○臨時休業等についての方針を一部変更します。大きな変更点は、これまでは台風以外の警報も当日休園の判断基準になっていたところを、今後は原則として台風接近や通過に伴う警報を判断基準とする点です。（詳しくは別紙をご覧ください）